平成３０年度　第１回徳島県企業局「戦略的経営推進委員会」議事概要

１　日　時　　平成３０年８月２日（木）１５時００分～１６時３０分

２　場　所　　県庁６階　企業局会議室

３　出席者　　＜委員＞
濱尾　重忠（座長）（敬称略、以下同）
粟飯原　一平
坂田　千代子
真鍋　恵美子
＜企業局＞
東端企業局長、志田副局長、湯浅次長、
粟田経営企画戦略課長
片岡事業推進課長、十河自然エネルギー事業化担当室長
古井施設基盤整備室長
川口政策調査幹
大塚総合管理事務所長

４　会議次第
（１）開会
（２）企業局長挨拶
（３）議事
①平成２９年度決算概要について
②企業局経営計画の平成２９年度進捗状況及び評価について
③その他

【配布資料】
資料１　平成２９年度決算概要について
資料２　「企業局経営計画の平成２９年度進捗状況及び評価」について
参考　　徳島県企業局経営計画　（平成２９年３月策定）

５　議事概要
（１）議題１　平成２９年度決算概要について
配布資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答。
（２）議題２　企業局経営計画の平成２９年度進捗状況及び評価について
配布資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答。
（３）その他

＜質疑応答＞

議題１　平成２９年度決算概要について

【委員】
　電気事業も水道事業もそうなんですが、建設改良費が予算に対して、電気が６８．２％、水道が７０．１％とかになっていますが、建設工事が遅れているとかそういう訳ではないんでしょうか。

【企業局】
　電気事業で申しますと、４発電所のうち３つが５０年を経過しています。新しいものも４０年が経過しているということで、老朽化対策にかなりの予算を投入しています。それと、耐震化もございまして、それにも建設費を使っています。

【委員】
　予算に対して、６０％とか７０％割合しか使えていないんですが、予定通りに工事に使えていないのではないかなとこの数字を見るだけでは思ってしまいます。その辺は何か理由があるんでしょうか。

【企業局】
　これは、工事そのものが遅延している訳ではございません。予算上繰り越し措置をしております。公営企業の中では、事故繰という言い方、知事部局では事故繰というと変な聞こえ方になるんですが、翌年度に繰り越しすることによりまして予算のほうは執行しております。ただ、繰り越しをするということにつきましては、特段の計画の遅延という話ではなくて、ある程度、折り込み済みのところで、繰り越しをしておりまして、計画そのものは、大きな遅延をすることはなく、順調に進んでいるということでございます。

【座長】
　そうしたら、繰り越すんであれば、予算を少なくしておけばいいんじゃないですか。

【企業局】
　例えば、工業用水道の管路更新に１億円の工事があるとして、当初の計画では年度内で計画しているんですが、いざ、掘ってみたら思ったよりも地盤が固くて、特別に地盤改良しないといけないと､それによって３ヶ月間工事が遅れるというようなことがございます。当初は、年度内でやる予定だったが、実際工事をやってみると、不測の事情が発生して遅れてしまうということで、年度内執行ができなくなって、予算に対する執行率が低くなるというようなことが、実際、工事の現場であるものですから。

【座長】
私が言っているのは、新しいことが分かりましたと、だから遅れましたと、そうすると、委員が言っているように遅れたんじゃないですか。

【企業局】
年度内の工事が予定どおりできなくて、翌年度に繰り越して、経費を支出するということです。

【座長】
こちらの会計では、年度年度ごとじゃなくて、繰り越すことはできるんですか。

【企業局】
はい。

【座長】
よく県（知事部局）だと、年度年度ごとが多いですが。

【企業局】
一般会計ですと、これだけの金額を翌年度に送りますというような議決をもらわないといけないのですが、企業局会計の場合は、議会の議決なしに送ることができます。

【座長】
ああ、そうですか。

【委員】
先ほどの委員の質問にも関連しているのですが、先ほどの西日本豪雨のような前例のないようなことが起きたときに、発電所の設備の老朽化などは大丈夫かどうかということと、予測だとは思いますが、藍場町地下駐車場の方は、近隣の大型施設の状況から影響を受けてという説明でした。近隣から影響を受けるのは仕方ないと思いますが、それに対して、こちらから能動的に対策できるようなことはないのかということで、２点、お伺いします。

【企業局】
発電所の豪雨への対応ですが、発電所はダムで水を貯めまして、それで発電しております。発電所そのものは影響ないと考えております。ダムについては、それぞれの河川で計画洪水（高水）流量というものを決めてますから、それを超えない限りは、大丈夫だと思っております。発電所の敷地に降った雨につきましても、排水溝で、下流端に流すような計画でおります。

【委員】

耐久性を上げるなど、進んでいるということですね。

【企業局】
発電所の設備の中でも、建築物と土木構造物があり、建築物につきましては、すべて、耐震補強が終わっております。土木的なものにつきましては、大きなものが残っておりまが、順次、計画的に進めているということでございます。

【企業局】
それと、駐車場の部分で、企業局として何をやっていくかということでございますが、やはり、施設の利便性向上や、利益還元によりますリピーターの確保が重要であると考えております。そうした中で、設備改修や、サービス向上策というものを、様々な角度から検討していくということをこれからも続けていきたいと考えております。平成２９年度では、藍場町地下駐車場で２箇所のトイレを全面改修しまして、シャワー付きの洋式便所や、チャイルドシートを設置したり、利用者の出入り口階段への誘導表示というものを誰でも一目で分かるような表示に変更したりと、さらに自転車や、ベビーカーの無料貸し出しや、期間限定でございますが、アイスクリームや携帯カイロの無料配布のキャンペーンも行ってきたということでございます。今後につきましては、こうした取組をさらにブラッシュアップはもとより、利用者へのアンケート調査というものを行っておりますので、そうしたものをニーズの分析に使いまして、さらなる利便性やサービスの向上に取り組んでいきたいというふうに考えております。

【座長】
こういった企業局の決算でいうと、よく赤字が多いですが、徳島県は非常に優秀で、過去も含めて大きな利益を出されておるということは、皆様方も大変なご努力だろうと思います。今後もぜひ、継続していただきたいと思います。

議題２　企業局経営計画の平成２９年度進捗状況及び評価について

【委員】
Ａ評価が大変多くて、すばらしいと思いながら聞かせていただいたのですが、どうしてもＣが一つだけあり、気になりますので、説明をもう一度、お願いいたします。

【企業局】
Ｃの評価につきましては、７番の地域が進める森づくりを支援というところでございます。これにつきましては、 平成３３年までの５年間で５００haの取得支援というところで、毎年、１００haを支援をしていきたいというところでございますが、 昨年度、実際に、公有林化の取得支援ができたものが、３０haであったということでございます。 これにつきましては、林業体験エリアといいまして、川口ダム湖畔の比較的、利便性が高い、人が入って行きやすいところを先行して那賀町さんに取得いただきました。少し、単価が高かったというところもございました。２９年度予算は、３千万円ということにしておりましたが、今年度につきましては、加速をさせて行きたいということで、３０年度は、５千万円ということで、増額をさせていただいております。今、那賀町さん等で公有林化の面積の調整をさせていただいているところですが、那賀町さんからは、今年度は、１００haを超える取得ができそうだというような予定のお話も聞いておりますので、積極的に進めていきたいと考えております。

【委員】
よく分からない点があるのですが、森づくりのためにどうするんですか、

【企業局】
企業局は、水力発電というところをさせていただいております。当然、水が流れて、山が崩れなくて、ダム湖に土がたまらないというところが、非常に重要であり、水源地域の涵養機能というものを維持していくのが、最終的に水力発電事業にも有意義だろうということです。水源涵養の機能を維持していくために、私有地であった場合は、なかなか人の手が入って間伐等ができないと、そうしたところを公有林化させていただいて、要は、細い木がいっぱいになってくると根も浅くなって保水力も落ちる、土砂崩れも起きやすいというところを間伐して、しっかりとした木を育てていくと。できれば、そういった針葉樹、杉とかの部分も、いろんな議論はありますが、できる部分については、将来は、広葉樹林化、そういったところも視野にいれながらやっていきたいというところで、こういった支援をさせていただいているところでございます。

【委員】
そうすると、持っている方が売ってくれないとかでしょうか。意味が違いますか。

【企業局】
面積的に、計画までいかないというのは、 売ってくださいといっても売ってくれない場合もありますし、こちらが想定したよりも単価的に、先ほども申し上げたように、利便性が高いところは、単価が高くなってきますので、当初、想定している単価では、１００haという数字に届かないというところもございます。 そうしたところも、勘案しながら、今年度は、予算も増額させていただいたということで、１００haに向けて、水源地域ですので、川口ダムの水源地となれば、那賀町さん、あと棚野ダム、正木ダムの上流については、勝浦町さんや上勝町さん、昨年度から、３町さん以外に、森林づくり推進機構さんにも買っていただけるよう要綱を変更いたしまして、そういった手立てを加えながら進めていきたいと考えているというところでございます。

【委員】
それに関連して、基本的な話かもしれませんが、日野谷発電所は、規模が大きい。長安口ダムより上流の小見野々ダムとか、みんな日野谷の発電用なんでしょうか。

【企業局】
水源としては、ずっと繋がっていきます。そうした部分もいれていきますと、水源地としては、その部分も入っていきます。

【委員】
川口ダム、長安口ダム、小見野々ダム、それから、坂州は大美谷ダムがありますね。

【企業局】
そうした部分も水源地域というような形で。

【委員】
那賀川本流の長安口から上流も長安口に流れ込むんですか。

【企業局】
長安口で使った水も川口に入りますから、川口ダムということになれば、上流の那賀川本川、坂州木頭川が入ります。赤松川からも入っています。

【委員】
なくなった話なんですが、細川内ダムができていたら、発電所は、もう一つ増やす予定だったんですか。そうではないんですか。

【企業局】
細川内ダム計画は、基本は、洪水調節と利水です。新規の工業用水で日量３万トン、新規の上水が２万トン、それと既得用水で、当時の利水安全度が１／３ですから、それを１／１０に上げるという利水計画でありました。

【委員】
今度、長安口ダムの堆砂を下流へ運んでという大きな事業計画がありますね。事業をすることで、 耐用年数を心配せずに、当分、使えるということなんですね。長安口ダムは、コンクリートの劣化とかそういったこととかないのでしょうか。

【企業局】
長安口ダムの堆砂計画は、今よりも悪くしない、現状を維持するということを基本にしています。コンクリートの劣化がどうかということですが、今のところ、はっきりしたことは言えませんが、長安口ダムは、重力式のダムでございますので、アーチ式なんかと比べて、重さで押さえ込んでいるダムですから、耐久性は相当あるものと考えています。

【委員】
相当セメントを使っていますからね。

【企業局】
長安口ダムについては、耐用年数は、コンクリートの耐用年数は、なかなか言われてないんですが、この前、ゲートを新しく新設しているんです。その時に、ダムをカットしたんですが、その中を見てみると、表面は劣化しているんですけども、中身は、全然劣化していないという状況でしたので、かなり使えるんじゃないかなと思います。

【委員】
昭和２７年頃から始まっているんですね。

【企業局】
建設は、そうですね。

【委員】
質問なんですが、９ページの４８番の最適な売電方法の検討というところで、新たな電力供給ブランド「やまなしパワー」を山梨県で調査をされたということなんですが、どういう内容であったか教えてください。

【企業局】
四国電力と長期契約を巻いており、当面は、四国電力に供給するということなんですが、電力の自由化に備えて、いろんなケースを考えているところでございます。公営企業の場合は、山梨県のような取組をやっているところがございまして、県内の特定の企業に少し値段を下げて売っている場合もございますし、逆に自然エネルギーというとこで、二酸化炭素を排出しないという価値を付加して売っているところもございます。

【委員】
何年先になるんでしょうか。

【企業局】
四国電力の契約は、平成２２年度から平成３６年度までの１５年間の契約です。

【座長】
駐車場なんですが、先ほどの決算の報告で、藍場町地下駐車場の方が約１万台減って、松茂の方が増えたとのことでした。しっかりアンケート等をとっていただいて、利用者の声を聞いたようですが、特に藍場の方は、特に利用について、藍場町地下駐車場が便利であるとか、なぜ、利用するのかについては、どんな回答が多かったのでしょうか。

【企業局】
やはり、近隣の施設を使うために、藍場を使うということがあります。一番、多い利用者の方となってくると、駅前の百貨店を利用される方、それから、あわぎんホールを利用される方、それから、イベント等が藍場浜公園であったときに利用される方、基本的にそういった近隣施設を利用される方々がメインになってきます。近くという利便性があるということで使われる方が多いということです。

【座長】
価格の面とかそういったことで、不満とかは出ていますか。 他にも駐車場がありますのでね。

【企業局】
金額的なもので、そういった不満というものは、今のところ、お聞きはしていないのですが、お金的には、そごうさんとか、アミコとかとほぼほぼ同じ金額になっています。

【座長】
駐車場は、指定管理ですか。

【企業局】
指定管理です。

【委員】
そうすると、１万台減ってきた理由というのは、何ですかね。

【企業局】
一番の影響としては、末広の方に大きなショッピングモールができたということで、やはり、一部消費動向が変わったのかなというところです。

【座長】
両方がら空きですね。人口減とかもあるんでしょうしね。

【企業局】
やはり、そうした小売り業者さんの新しいところが出てくると、１回そういうところに流れるので、そうした動向に左右されるところだと思います。

【委員】
藍場の収容台数は、何台ですか。

【企業局】
２９５台です。

【座長】
松茂が増加したところは、何かこちらの方で分析しているのですか。

【企業局】
やはり、高速バスの利用者の送り迎え、あるいは、とくとくターミナルの利用の方々に使っていただけたのかなというようなイメージでございます。

【座長】
バスの利用が増えていますからね。

【座長】
しかし、減ったとしても、先ほどの決算の報告では、一応、利益はあるんですね。

【委員】
県の関係で、一番、いい内容ではないですか。一番の稼ぎ頭で。

【委員】
あと、発電は水力と太陽光とだけですよね。海流だとか、風力だとかそういった計画はないのですね。

【企業局】
かつては、風力発電を佐那河内村の大川原というところで、NEDOと共同事業をやったことがございましたが、その場所は、民間に継承されておりまして、大川原ウィンドファームとして、風車が１５基ありますし、その横も計画が進んでいるところでございます。それ以外で、洋上風力ということになりますと、全国的にも実証実験の段階です。洋上風力は着床式、海底から立ち上げる方式がありますが、民間企業も参入していますが、日本近海で適地が少ないというところがございます。沖合にでると、浮体式になりますが、浮体

式は、コストがかかるものですから、風車が大きくなります。大きい風車は、日本近海の風況ですと、うまく回らないということで、環境省と経済産業省が実証実験をしていますが、なかなかいい結果が得られていないというところです。
　バイオマスもありますが、 バイオマスは、燃料が調達できるかどうかというのがポイントになってきます。

【委員】
　バイオマスの場合は、インフラ整備、港湾とかの問題も出てくるんですか。

【企業局】
　そうです。今、国内あるいは県内の木材では、燃料がまかなえない状況がございまして、輸入しているところがございます。輸入ということになりますと、港湾施設が必要になってきます。

【委員】
　あと鳴門の海流とか、潮流ですね、そういうのは、ほとんどまだ現実的なものではないんでしょうか。

【企業局】
　潮流についても、過去に検討して、ホームページ等で公表していました。エネルギー賦存量は、相当ありますが、この地域は、観光地でもありますし、漁業が営まれているところもあるし、航路でもありますので、実現が難しいところです。

【座長】
　あと、工業用地のところですが、西長峰工業団地は、すべて売却及びリースで、このリースをさらに売却したいと活動されているということでしょうか。

【企業局】
　リース期間がありますが、リース期間の先には、買っていただきたいというところがありますので、そういったからみで情報収集等をさせていただいているところです。

【委員】
　今、そこで、リースしている企業さんは、どんな感じなんでしょうか。

【企業局】
　今のところ、明確に買っていただけるというところまでの情報までは、まだ、いただけていないという状況です。

【座長】
　利用していただいているので、借りていただいているのでもいいんでしょ。

【企業局】
　まったく、撤退という話になってしまうと、土地も空きますし、当然、雇用されている方の話もありますので、当然、工場としては、いていただくというのがまず、基本で、そうした中で、買っていただけるとよりよいということもありますので、そうしたやりとりをしています。

【座長】
　固定資産税が地方に入ってくる訳ですから。雇用も。

【座長】
　Ｃ評価がひとつあったことについて、委員からも御質問がありましたが、今後さらに、１０年という非常に長い経営計画をつくっているわけですが、それについて、しっかり、ぜひ、お願いしたいというふうに思います。

その他

【委員】
売り上げを有効的に使っているのでしょうか。

【座長】
儲かった分は、どのようにされているのかということでしょうか。

【企業局】
大きなところで説明をさせていただきます。企業局としては、黒字を計上させていだきまして、過去の利益とか、減価償却費とか、蓄積している保有資金につきましては、４会計全体で、１９５億ございます。ただ、これにつきましては、使途が定められている資金もございますので、それを除きましたら、１１８億ほどでございます。ただ、これにつきましては、委員の方からも、耐震化対策、老朽化対策、例えば、発電事業でございましたら、川口ダム等につきまして、老朽化対策を今後も進めていかなければいけない。 それに対しまして、非常に多額な金額が入り用になってきます。また、工業用水道事業、現在は、１０年計画で、早急に対応しなければいけない優先度の高い水道管につきまして、老朽化対策、耐震化対策を行っておりますが、概算でおおよそ８６億円、実はかかります。
つまり、今、内部留保として持っておりますものにつきましては、工業用水道の管路の対策、あるいは、ダム対策、いわゆる、発電施設の老朽化、耐震化対策、こちらの方に、相当程度、ほぼ、全額に近いくらい、つぎ込むような形になっておりますので、今、黒字計上している部分というのは、将来的には、そういった老朽化、耐震化対策の方にまわっていくと、いうふうなところでございます。できるだけ、企業局といたしましては、県内の一般の方々に対する電力の供給、それから、工業用水道事業でしたらユーザー企業への工水の安定供給、これをずっと続けていかなければいけませんので、そういったことを継続する意味で、老朽化対策、耐震化対策に主に充当していくというような考え方でございます。

【企業局】
今、話がありましたように、工業用水で言いますと、４８㎞のうち、８．４㎞を集中的にやるということで、全体４８分の８．４を、今、一生懸命やっていますが、進捗率は４０％です。８．４㎞の工事に８６億のお金が必要なんです。新しく布設替えするなり、管路更新するなり、あと、電気 、発電の関係でも川口ダムのゲートの更新が大きな工事となってきますので、発電もゲートの更新など８０億くらいのお金が必要になってきます。先ほど、１２０億ほど、お金があると申し上げたのですが、あることはあるが、今後の投資を考えると、そんなに余裕はないと、逆に、工業用水はきびしいくらいです。

【座長】
４，０００億くらいの規模ですからね。その理論ではですね、資金と投資と経常的な利益が出るのと、ごっちゃにされていると思うんです。事業しながら、利益を過去、ずっと出してきている訳ですから、これは、利益が出ないんだと、全部０になると、これを全部使っても利益が出ない状況があるとしたら、使わざるを得ないんですよということがある訳です。これまで、ずっと、投資をし、それぞれ、毎年それぞれ利益を出し、積み上げてきた訳ですから、投資とそれぞれの損益と分けてきちっと考えてないと。これは、企業でもいっしょなんです。企業でも常に投資をするというふうなことでね。

【委員】
早明浦の問題というのは、企業局とは、まったく関わりがないのでしょうか。

【企業局】
早明浦ダムの再編をやられており、その中で徳島県の工業用水の話は出ていますけども、企業局の吉野川北岸工業用水、その分については、影響はございません。

【委員】
あの北岸の農業用水がございますね。

【企業局】
あれは、水利権が別です。
池田ダムから取水しています。

【企業局】
農業用水は、古くからあるもので、早明浦ダムに依存していないということで、水利権を持っています。新しいものについては、早明浦ダムに依る水利権がございます。 北岸用水の場合は、ほとんどが不特定ということで、早明浦ダムに依っていない。 逆に、工業用水や上水道の相当数が、早明浦ダムを水源とした水利権となっています。

【委員】
この北岸の工業用水や、那賀川の工業用水は、これらを農業用水の利用とか、そういう方向にというのは、もしも、いろいろ問題が出てきた場合に、そういう利用の仕方はあるんでしょうか。

【企業局】
基本的に、水利権は、取水量と場所と用途が規定されていますので、水の融通はできないんですが、ただ、渇水で非常事態だということになれば、そういう水融通もやっています。吉野川北岸工業用水は地震等取水ができなくなった場合は、農業用水から水を融通し

てもらえないかいう地震対策をメニューとして入れています。平時の融通は難しいんです。災害時には、柔軟に対応していただけるよう国と協議をさせていただいています。

【委員】
太陽光発電は、順調ですか。

【企業局】
順調です。

【委員】
気温は関係ないんでしょうか。

【企業局】
温度が上がると、変換効率が若干、下がるそうですが、順調に進めています。

【座長】
順調に事業を進めていただいていて、非常に結構だと思います。